

# 自尊と敬虔

和木中学校だより 第2562号

令和8年7月7日（火）

〒740-0061 和木町和木2丁目5番2号

TEL 52-4328 FAX 52-5265

和木中 Web ページ <https://www.sky.icn-tv.ne.jp/~waki-jhs/>

保護者や地域の皆様にご協力いただき無事1学期も終えることができそうです。大変お世話になりました。夏休みも規則正しく安心安全な生活を送ってほしいと思います。

## 6月27日（土） 玖珂歯科医師会よい歯のコンクール 玖珂こどもの館

これからも「よい歯」を維持し美味しいものを沢山食べて健康な人生を送っていきましょう。

○第3位 (3年)

○入賞 (3年) (3年) (3年)

(3年) (3年) (3年)

## 探究課題 何のために「生きていく」のか？

探究課題について生徒の声を紹介していますが、「学ぶ」「働く」「幸せ」に関連する次のような新聞記事を目にしましたのでご紹介します。生徒集会で生徒にも伝えた内容です。

### 86歳・尾畠さん「一生勉強」スーパーボランティア 大分の夜間中学入学 『産経新聞』R8.5.9

全国の被災地に駆け付け、山口県で平成30年に行方不明男児を助けた「スーパーボランティア」の尾畠春夫さん（86）が、大分県で初となる夜間中学の県立学びヶ丘中に入学した。子供の頃、農作業のため十分学べなかった。入学式を終え「夜間中学で学べることは最高の幸せ。楽しみ」と念願の学校生活に胸を高鳴らせた。

大分県安岐町（現・国東市）で、7人きょうだいの上から4番目に生まれた。小4で母を亡くし、小5から農家に住み込みで働いた。農作業に明け暮れ、中学卒業までに40日ほどしか学校に行けなかった。「なんで自分だけ家を追い出されたのかな」。天命だと思って忘れようとするほど「学びたい」という気持ちが募った。

中学卒業後、同県別府市の鮮魚店で働き始めてからも学習意欲は強まるばかり。足し算や引き算ができないと仕事にならず「頭の隅っこに『勉強したい』という思いがずっと消えなかった」。

現在は地元紙を1時間以上かけて読むのが日課。分からない漢字があれば辞書で調べて書き写す。東日本大震災を受けて宮城県南三陸町を訪れた際も、辞書を持参した。

「大分県に夜間中学ができると聞いた時はうれしかった」と入学を決めた。「ただ勉強がしたい。知識をボランティアにも役立てたい」と話す。

年を重ね、緑内障で右目を失明。胃がんも患った。それでもごみ拾いや、地元の大学生にボランティア講座を開くなど精力的だ。86歳の新入生は「人生は一生勉強ですから」と笑った。

## ◇1年生：「学ぶ」とは？

○将来のため。まだ知らない事を知る（知識を身につけること）。自分にできることを増やす。楽しみや好きなことをやること、苦手なことをやることにちゃんと向き合う事。自分の世界を広げること（知識を広げること）。

○学ぶとは、将来につなげたり自分のことを知らせるためにどのようなことを言えばよいかを考えるために学ぶ。

○学ぶとは将来の夢に役立つものだと思います。それを選んだ理由は勉強したら大学とかにいけるからです。

○知ること。生きていくために大切なこと、自分が〇〇をしたい、できるようになるためにすること。夢をかなえるためにすること、新しく発見すること。

○先生や友達にいろいろなことをたくさん教えてもらって、自分の知識を増やしたり、実生活で生かしたりすること。

○知識を増やすこと、思考すること、失敗したことを次に生かすこと。全てが将来のためや、自分のためになる。

#### ◇2年生：「働く」とは？

##### ～民泊体験でお世話になった、受入家庭や役場職員の方々の姿から～

○私が思う「働く」とは、自分の生活に必要な給料をもらうためではなく、人のために働くこと。

○家族のために働いてお金を稼ぐこと。家族の負担を少しでも減らすために手伝いすること。

○私は料理をするのが苦手だったけど、受入家庭の人たちは優しく丁寧に教えてくれたおかげで、きれいにアジを切れました。働くとは、自分のスキルや労働を通じて社会や誰かのために役立つことだと思います。

○生活するのに大切に家族を支えたり友達にも良い手助けができるのではないかと思います。

働くことで自分にもよい経験ができるし家族や友達にもいいところを見せることができると思いました。

○自分のため。地域の人や周りの人の生活や自分を成長させるために働く。

#### ◇3年生：「働く」とは？

##### ～修学旅行解散式生徒代表挨拶～

○皆さん2泊3日お疲れさまでした。いい笑顔あふれる心に残る修学旅行にできましたか。私はユニバで仲良く友だちとアトラクションにのったり、京都で歴史的建物を見たり、おいしいごはんを食べたり、奈良で世界遺産を学んだり、いい笑顔あふれる心に残る修学旅行にできたと思います。また、たのしい修学旅行をすごし、無事帰ってくるのができたのは、5人の先生方、添乗員の方々、バスの運転手さん、旅行会社の方々、家族などいろんな人の支えがあつての修学旅行です。見えないところで私たちのために尽くしてくれたことを感謝しましょう。(後略)

##### ～修学旅行でお世話になった、旅行会社や宿泊・見学施設等で働いているの方々の姿から～

○誰かのために何かをすること、お金を得ること。間接的にも直接的にもきっと誰かのためになっている。

○私はバスの運転手さんやガイドさんなどを見て、「働く」とは私達の思い出を裏で支えてくれたことだなと思いました。「働く」ことで私達が安心・安全で笑顔になることができたのだと思います。また、私が修学旅行でお世話になった方々を見て考えた「働く」とは、全員共通して「お客さんを主役に立たせ、喜ばせる」ということではないかと考えました。

○添乗員さんがいなかったらいい修学旅行になってなかったし、5人の先生方や大阪、京都、奈良でいろいろして下さった人のおかげでスムーズに行動できたから「働く」とは人を笑顔にすることだと思う。